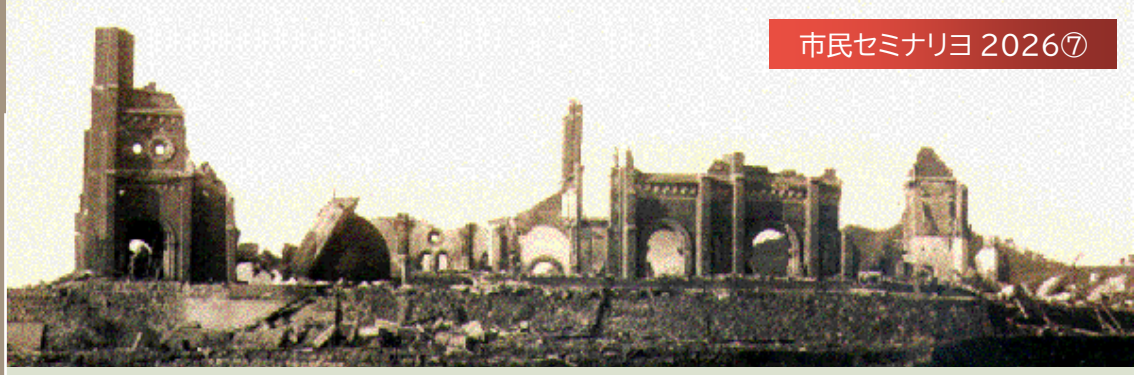
市民セミナリヨ 2026⑦



パウロ 山口愛次郎

1894 浦上山里村生まれ
1919 長崎公教神学校卒
1923 ローマ・ウルバノ大学卒後
　　司祭叙階
1937 長崎司教叙階
1943 インドネシアに赴任
1945 原爆により
　　実母と弟家族を失う
1946 帰国
1948 長崎市公安委員長
1959-68 カトリック長崎大司教
1962-65 バチカン公会議参加
1976 死去（82 歳）





山口愛次郎司教の訪米と浦上天主堂の再建

―日米カトリック関係史から読み解くその深層―

2026/11/7 Sat　13:00 open 13:30 start 15:00 end

浦上キリシタン資料館コミニュティールーム

１９５５年5月、パウロ山口愛次郎司教は、原爆で破壊された浦上天主堂の再建資金調達のために渡米した。訪米は翌年１月までの長期に渡るもので司教は米国各地を周り資金集めに奔走した。

この訪米は、同年１２月に締結され日米初の姉妹都市と位置付けられる長崎市とセントポール市との都市提携や翌年の田川務長崎市長の訪米などとも関連づけられて、旧浦上天主堂遺構の保存・撤去問題に米国から何らかの政治的圧力があったことの証左の一つとして語られることが多い。

講演では、この問題に関してこれまでほとんど検討されてこなかった日米のカトリック教会の文書に依拠しながら、山口司教の訪米と浦上天主堂再建を、戦前から戦後にかけての日米カトリック関係史の継続性の中に位置付け、その「深層」に迫る。

講師：**宮崎広和**（みやざき ひろかず）



1990年上智大学外国語学部英語学科卒業。1998年オーストラリア国立大学大学院人類学博士課程修了、PhD 取得。コーネル大学（ニューヨーク州イサカ市）助教授、准教授、教授を経て、現在、ノースウェスタン大学（イリノイ州エバンストン市）人類学教授。専門は、交換、希望、平和の文化人類学的研究で、これまで太平洋のフィジー諸島、日本、米国各地でフィールドワーク。2016年より長崎における平和・核廃絶への市民の取り組みを研究。

現在は米国都市における核軍縮への取り組みを研究。2018年より長崎市の長崎平和特派員も務める。日本語の著作に、『希望という方法』（単著）、『金融人類学への誘い』（単著）、『平和を生きる日米人形交流』（共著）がある。現在、山口愛次郎大司教の半生を通じてカトリック教会の戦争と原爆への関わりを考える本を執筆中。

◆主催：NPO 法人アジェンダ NOVA ながさき
www.feature.jp/agenda/
◆資料代：500 円　◆定員：40 名
◆申し込み：浦上キリシタン資料館（長崎市平和町 11-19）へ
電話・FAX・メールで氏名と連絡先を
tel&fax：095-807-5646　urakamicm@mxa.cncm.ne.jp
◆お問い合わせ：090-7923-7435（林田）

アジェンダ HP